

第48回 県政に関する世論調査の結果について

平成26年12月22日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2469

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は本年度1回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、福祉、観光、千葉県の農林水産物、防災に関する取り組み、地方分権、広報・広聴活動について県民の意識調査及び「県政への要望」についての調査を行いました。

1 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。
- (4) 調査方法 郵送法(郵送配付一郵送回収)
- (5) 調査時期 平成26年8月6日～8月25日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,605(53.5%)

3 調査の項目

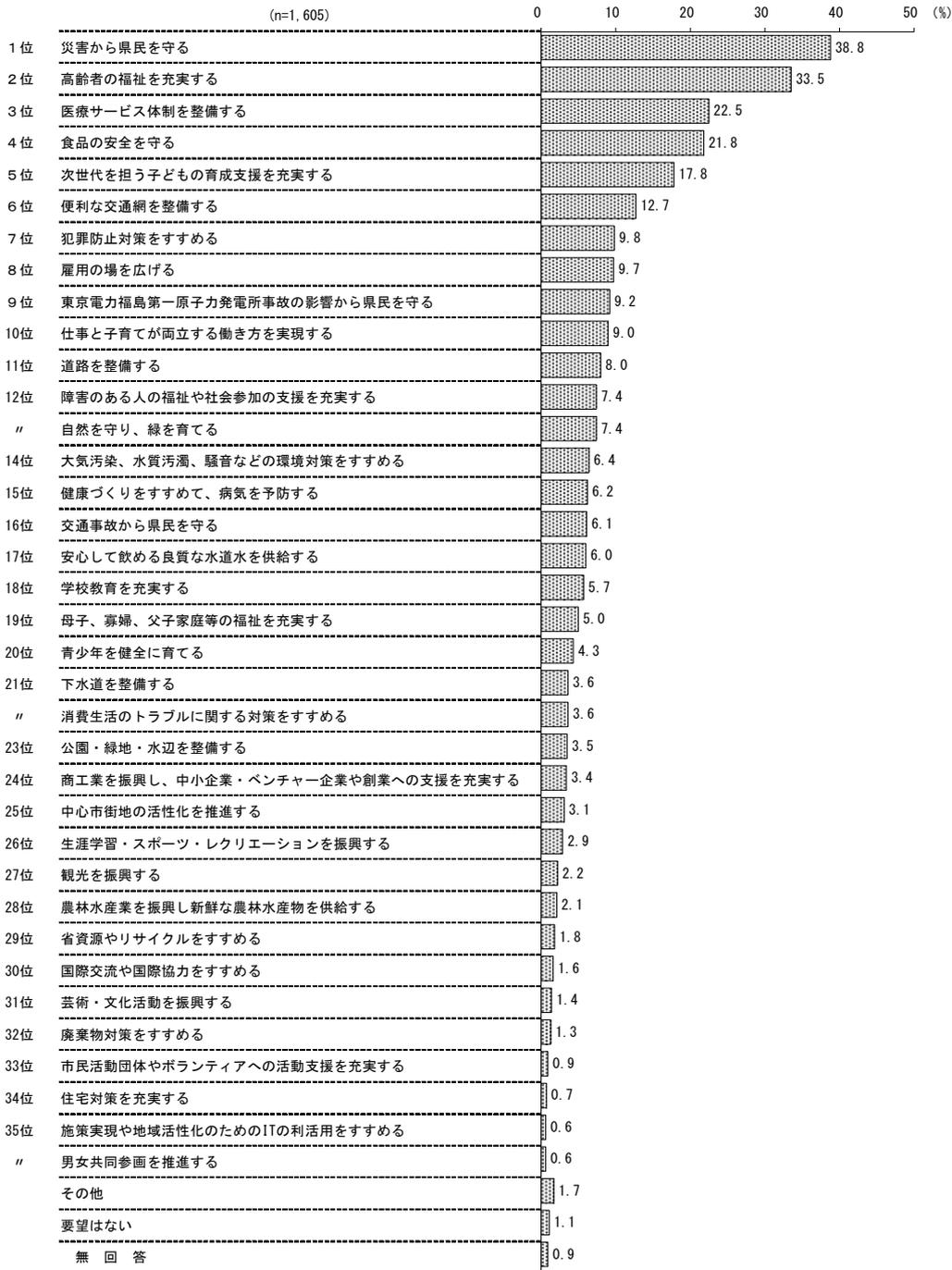
- (1) 県民意識調査
 - ①環境と生活について
 - ②健康について
 - ③福祉について
 - ④観光について
 - ⑤千葉県の農林水産物について
 - ⑥防災に関する取り組みについて
 - ⑦地方分権について
 - ⑧広報・広聴活動について
- (2) 県政への要望

4 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

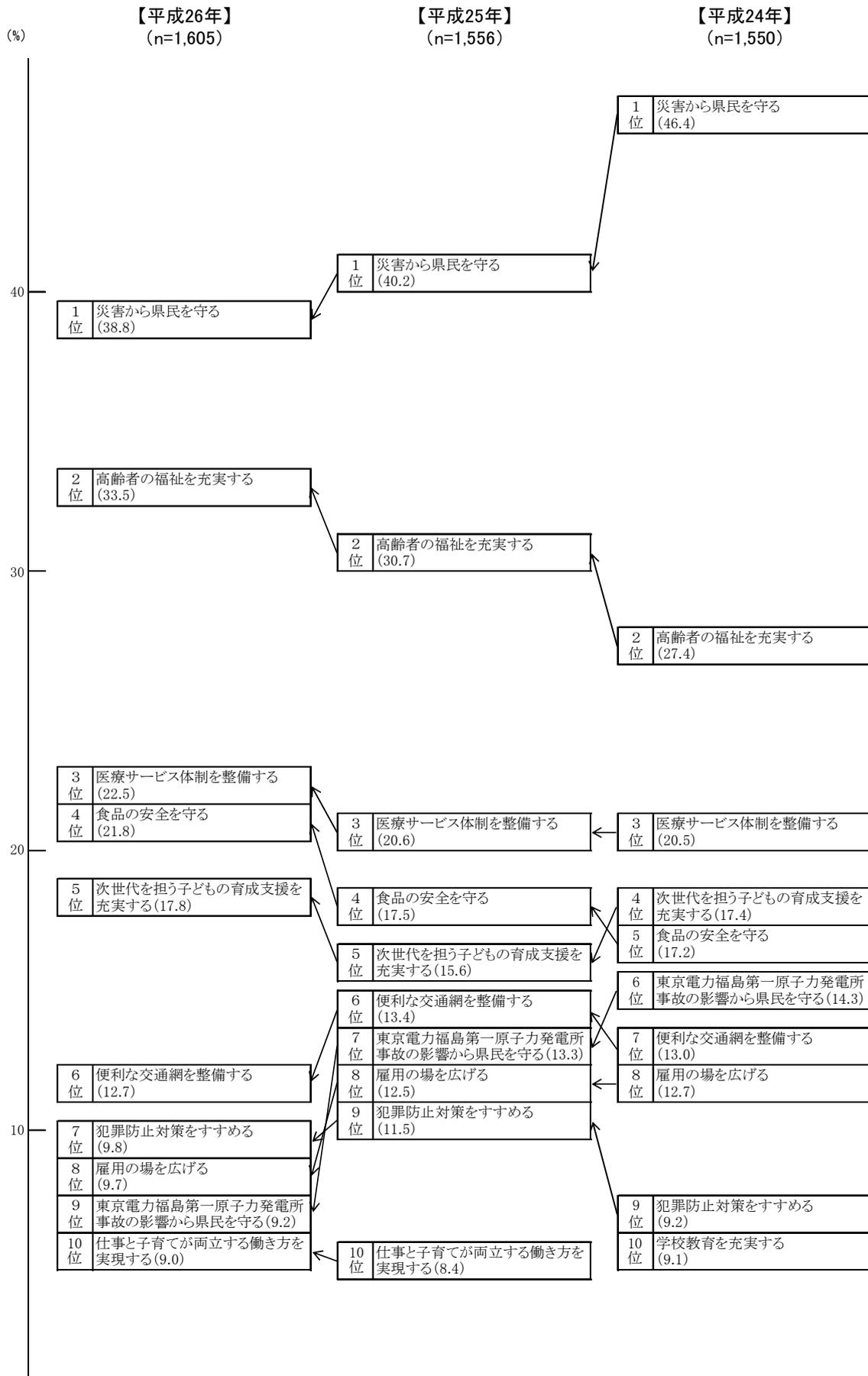
(複数回答：3つまで)



今回調査の主な特徴

1. 「災害から県民を守る」(38.8%)が約4割、「高齢者の福祉を充実する」(33.5%)が3割台半ばで、県民の要望が特に高い。
2. 「災害から県民を守る」は、24年度(46.4%)、25年度(40.2%)に引き続き第1位(38.8%)。しかしながら、この2年で7.6ポイントの減少となっている。
3. 「高齢者の福祉を充実する」は、25年度(30.7%)に引き続き第2位(33.5%)、「医療サービス体制を整備する」も25年度(20.6%)に引き続き第3位(22.5%)。以下、第4位(21.8%)の「食品の安全を守る」、第5位(17.8%)の「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」、第6位(12.7%)の「便利な交通網を整備する」まで、上位6項目の順位は25年度と変わらない。

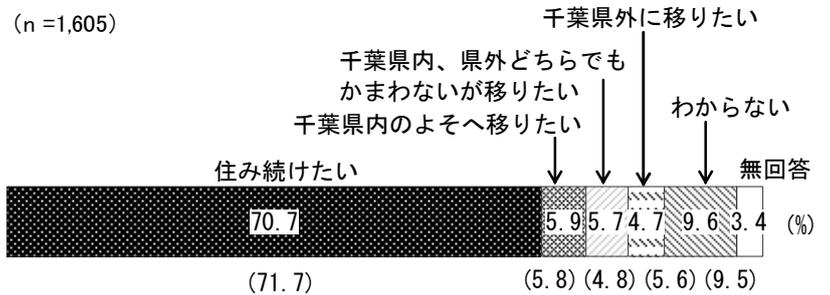
■ 県政への要望／上位 10 項目の推移



2 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(70.7%)は7割。一方、「千葉県外に移りたい」は4.7%となっている。また、「住み続けたい」と「千葉県内のよそへ移りたい」(5.9%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい』(76.6%)は7割台半ばとなっている。

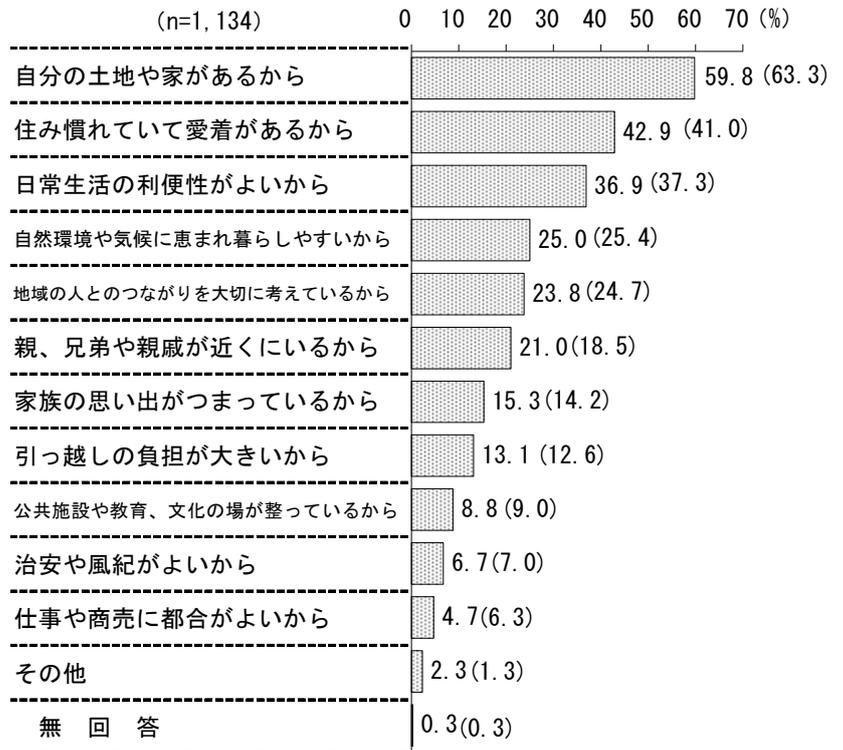


注) () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した1,134人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(59.8%)が約6割で最も多く、以下、「住み慣れていて愛着があるから」(42.9%)、「日常生活の利便性がよいから」(36.9%)が続く。

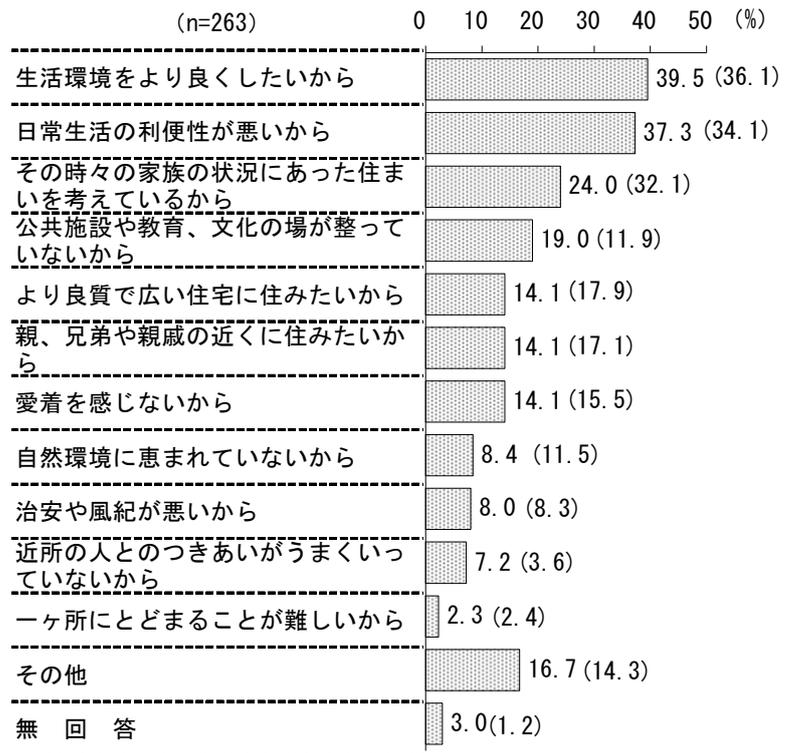


注) () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(1-2) 移りたい理由

(複数回答：3つまで)

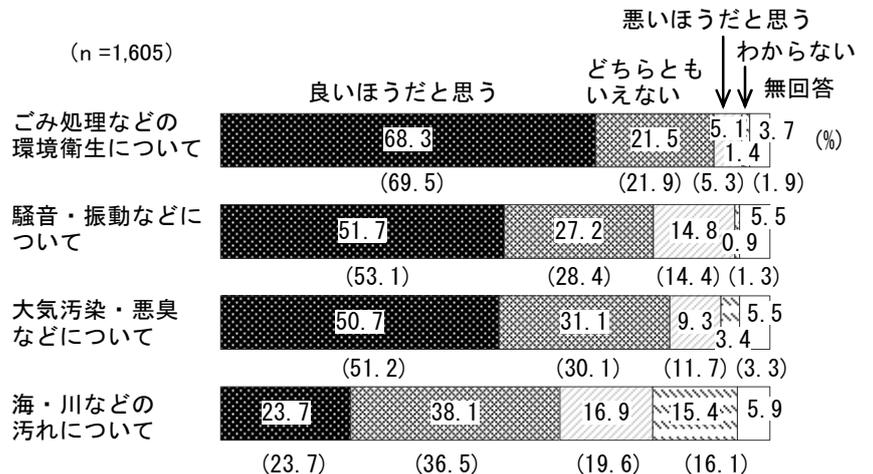
「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した263人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(39.5%)が約4割と最も高く、以下、「日常生活の利便性が悪いから」(37.3%)、「その時々家族の状況にあった住まいを考えているから」(24.0%)が続く。



注) () 書きは、平成25年度の調査結果を示している。

(2) 生活環境について

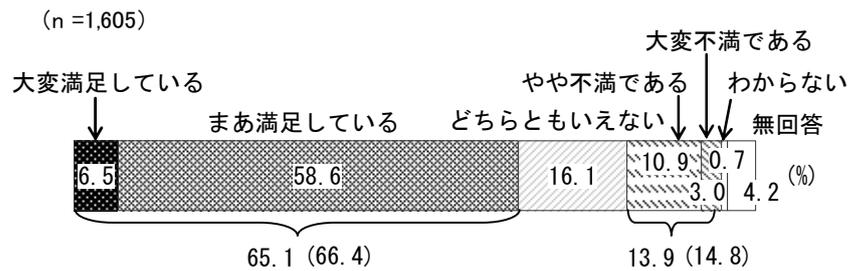
生活環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、「ごみ処理などの環境衛生について」(68.3%)で約7割。以下、「騒音・振動などについて」(51.7%)、「大気汚染・悪臭などについて」(50.7%)が5割となっている。一方、「海・川などの汚れについて」は、「良いほうだと思う」(23.7%)と「悪いほうだと思う」(16.9%)の差がわずかとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成25年度の調査結果を示している。

(3) 生活環境全般の満足度

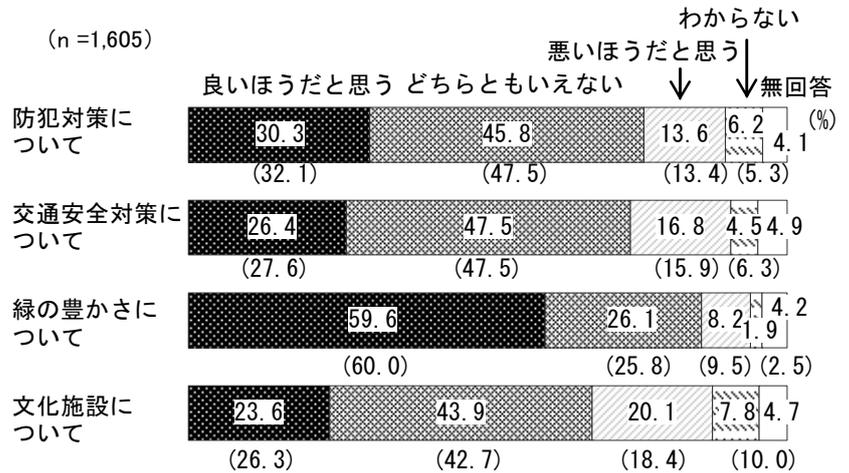
生活環境全般に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(6.5%)と「まあ満足している」(58.6%)を合わせた『満足している』(65.1%)は6割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」(10.9%)と「大変不満である」(3.0%)を合わせた『不満である』(13.9%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(4) 周辺・自然環境について

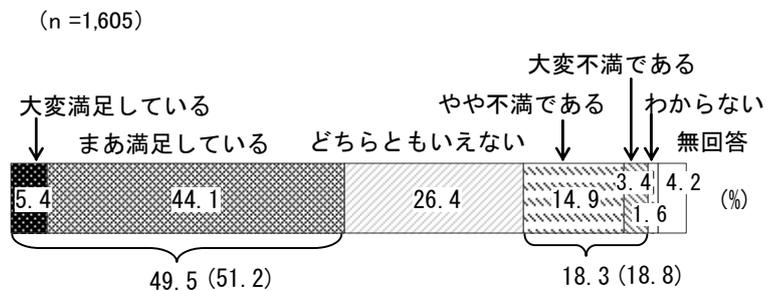
周辺・自然環境に関する4つの項目についてそれぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは〈緑の豊かさについて〉(59.6%)が約6割となっており、以下、〈防犯対策について〉(30.3%)、〈交通安全対策について〉(26.4%)、〈文化施設について〉(23.6%)が続く。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(5) 周辺・自然環境全般の満足度

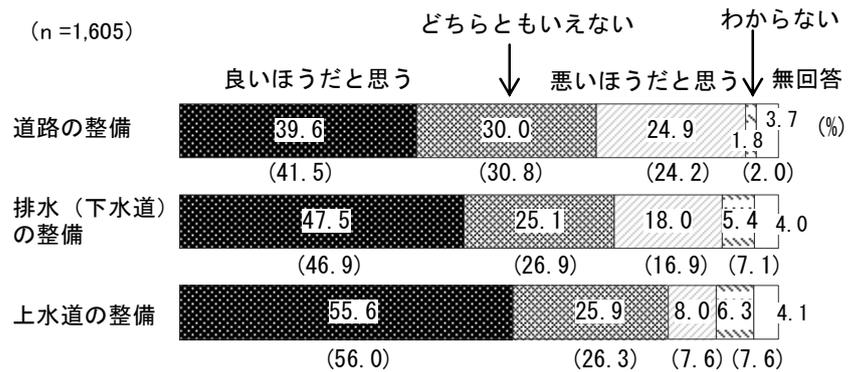
周辺・自然環境に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(5.4%)と「まあ満足している」(44.1%)を合わせた『満足している』(49.5%)は約5割となっている。一方、「やや不満である」(14.9%)と「大変不満である」(3.4%)を合わせた『不満である』(18.3%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(6) 基盤整備について

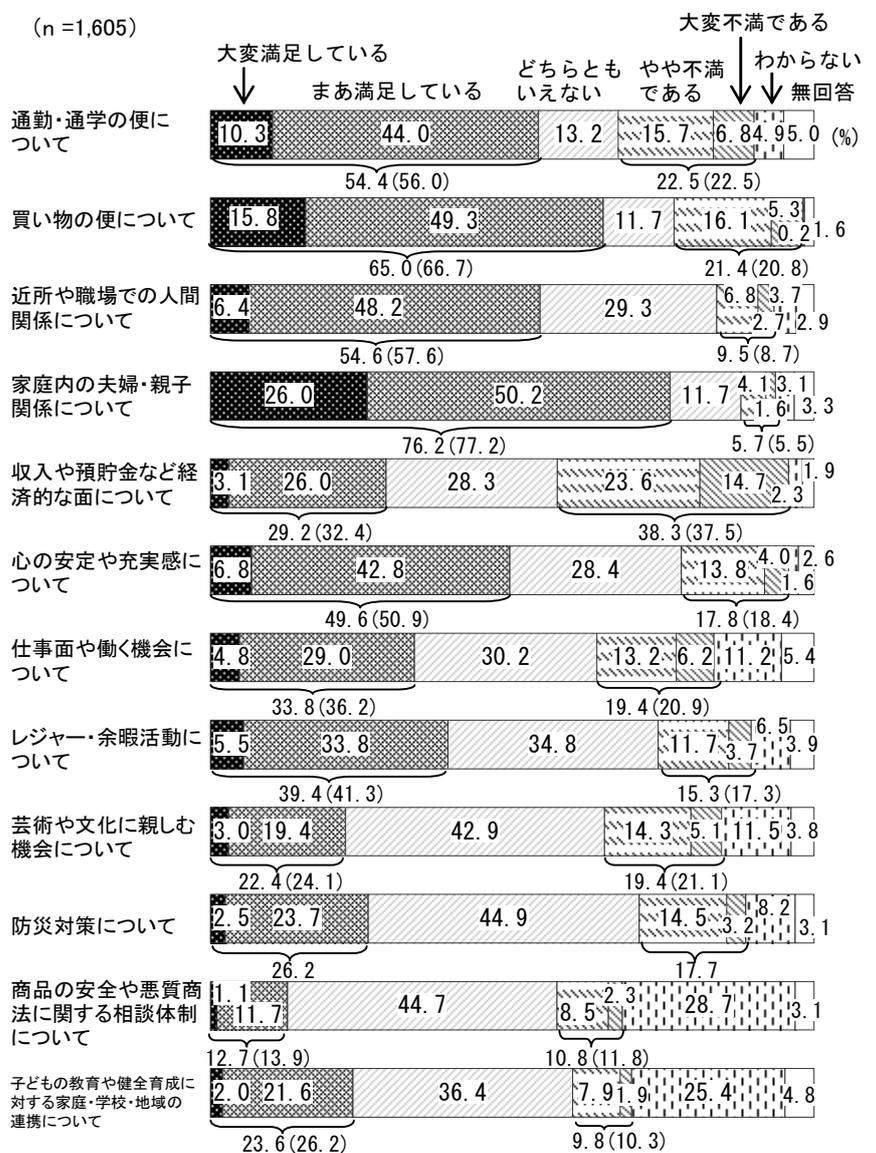
基盤整備に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、〈上水道の整備〉(55.6%)で5割台半ばとなっている。次いで、〈排水(下水道)の整備〉(47.5%)が約5割、〈道路の整備〉(39.6%)が約4割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成25年度の調査結果を示している。

(7) 現在の生活の満足度

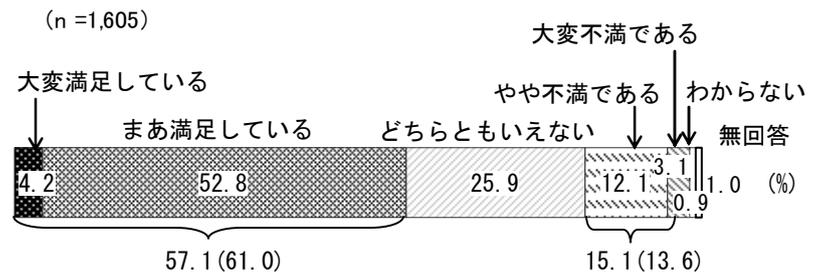
現在の生活に関する12個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』が最も高いのは、〈家庭内の夫婦・親子関係について〉(76.2%)で7割台半ばとなっている。以下、〈買い物の便について〉(65.0%)、〈近所や職場での人間関係について〉(54.6%)、〈近所や職場での人間関係について〉(54.6%)、〈通勤・通学の便について〉(54.4%)と続く。一方、「やや不満である」と「大変不満である」を合わせた『不満である』の割合は、〈収入や預貯金など経済的な面について〉(38.3%)が約4割となっており、『不満である』の割合を『満足している』の割合を上回っている。



注) 下段の () 書きは、平成25年度の調査結果を示している。

(8) 住生活全般の満足度

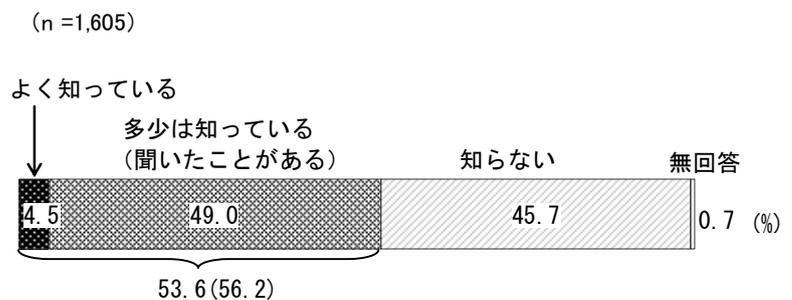
現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）に関する満足度を聞いたところ、「大変満足している」（4.2%）と「まあ満足している」（52.8%）を合わせた『満足している』（57.1%）は約6割となっている。一方、「やや不満である」（12.1%）と「大変不満である」（3.1%）を合わせた『不満である』（15.1%）は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(9) 市民活動団体の活動の認知度

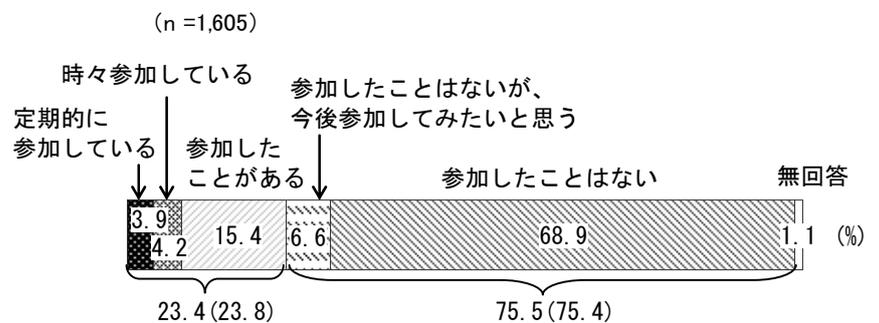
市民活動団体の活動の認知度を聞いたところ、「多少は知っている（聞いたことがある）」（49.0%）が約5割となっており、これと「よく知っている」（4.5%）の2つを合わせた『知っている』（53.6%）は5割台半ばとなっている。一方、「知らない」（45.7%）は4割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(10) 市民活動団体の活動への参加経験

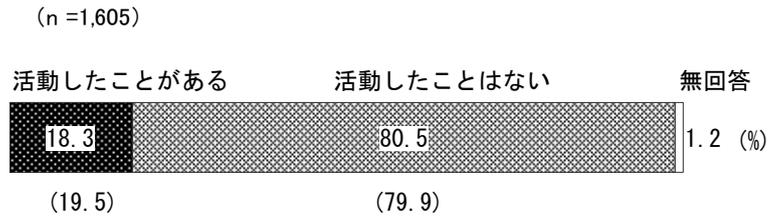
市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」（3.9%）と「時々参加している」（4.2%）、「参加したことがある」（15.4%）の3つを合わせた『参加している』（23.4%）は2割台半ばとなっている。一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」（6.6%）は1割以下、「参加したことはない」（68.9%）は約7割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(11) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるかを聞いたところ、「活動したことがある」(18.3%)は約2割となっている。一方、「活動したことはない」(80.5%)は8割となっている。

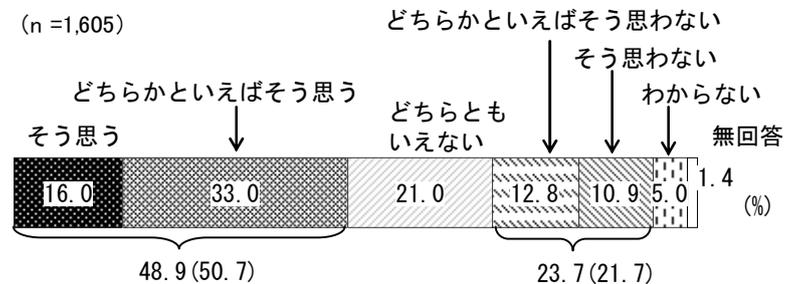


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

3 健康について

(1) 健康づくりに取り組むことができる環境

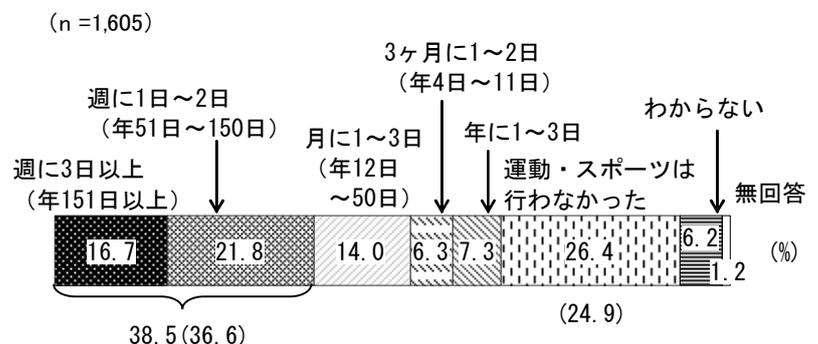
自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(16.0%)と「どちらかといえばそう思う」(33.0%)を合わせた『そう思う』(48.9%)は約5割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.8%)と「そう思わない」(10.9%)を合わせた『そう思わない』(23.7%)は2割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(2) 健康づくりのための運動

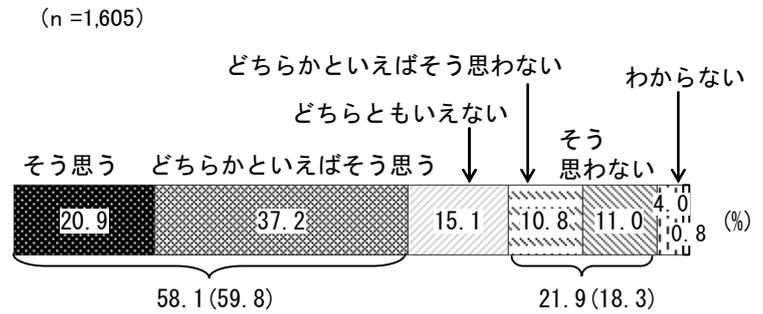
健康づくりなどのために1年間に何日くらい運動やスポーツを行ったかを聞いたところ、「週に3日以上(年151日以上)」(16.7%)、「週に1日~2日(年51日~150日)」(21.8%)を合わせた『健康づくりのために週1日以上運動した』(38.5%)は約4割となっている。一方、「運動・スポーツは行わなかった」(26.4%)は2割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(3) 安心して受診できる医療体制

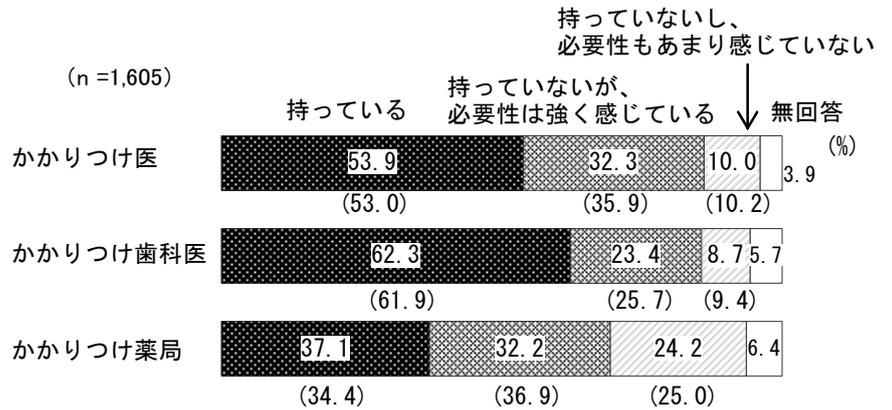
住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(20.9%)と「どちらかといえばそう思う」(37.2%)を合わせた『そう思う』(58.1%)は約6割である。一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.8%)と「そう思わない」(11.0%)を合わせた『そう思わない』(21.9%)は2割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(4) かかりつけ医の有無

かかりつけの医師、歯科医師、薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は歯科医師(62.3%)が6割を超え、医師(53.9%)は5割台半ば、薬局(37.1%)は約4割となっている。また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は医師(32.3%)と薬局(32.2%)が3割を超えている。「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は薬局(24.2%)が2割台半ばとなっている。

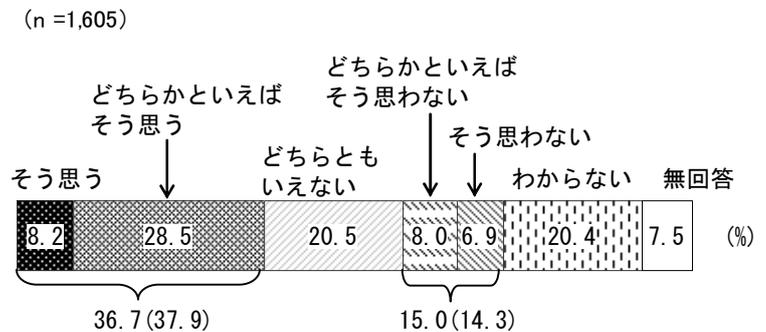


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

4 福祉について

(1) 安心して子育てできる環境

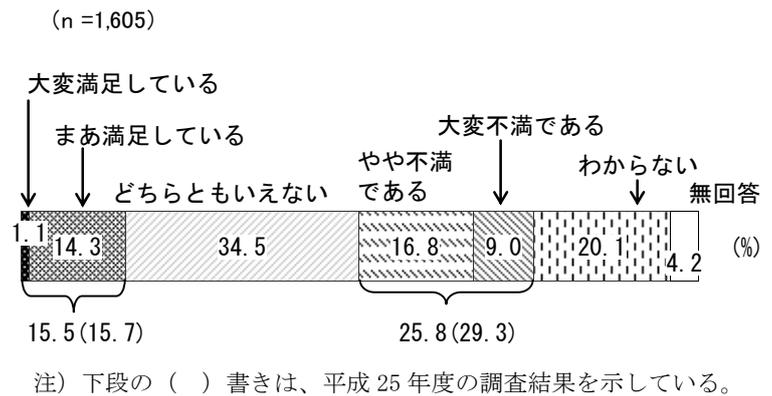
自分が安心して子育てできる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(8.2%)と「どちらかといえばそう思う」(28.5%)を合わせた『そう思う』(36.7%)は3割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.0%)と「そう思わない」(6.9%)を合わせた『そう思わない』(15.0%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

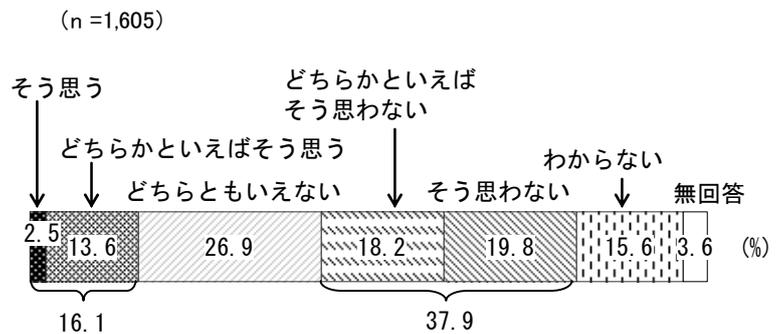
(2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策について

お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についてどう感じているか聞いたところ、「大変満足している」(1.1%)と「まあ満足している」(14.3%)を合わせた『満足している』(15.5%)が1割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」(16.8%)と「大変不満である」(9.0%)を合わせた『不満である』(25.8%)は2割台半ばとなっている。



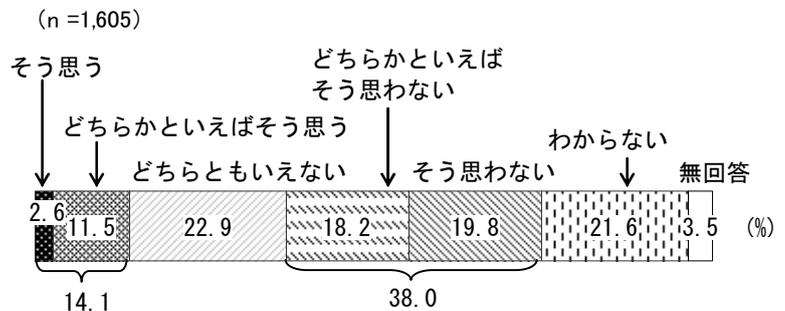
(3) 安心して暮らせる地域社会づくりについて

地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(2.5%)と「どちらかといえばそう思う」(13.6%)を合わせた『そう思う』(16.1%)は1割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(18.2%)と「そう思わない」(19.8%)を合わせた『そう思わない』(37.9%)が約4割となっている。



(4) 障害のある人がその人らしく暮らせる社会づくりについて

障害のある人がその人らしく暮らせる社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(2.6%)と「どちらかといえばそう思う」(11.5%)を合わせた『そう思う』(14.1%)は1割台半ばとなっており、「どちらかといえばそう思わない」(18.2%)と「そう思わない」(19.8%)を合わせた『そう思わない』(38.0%)は約4割となっている。

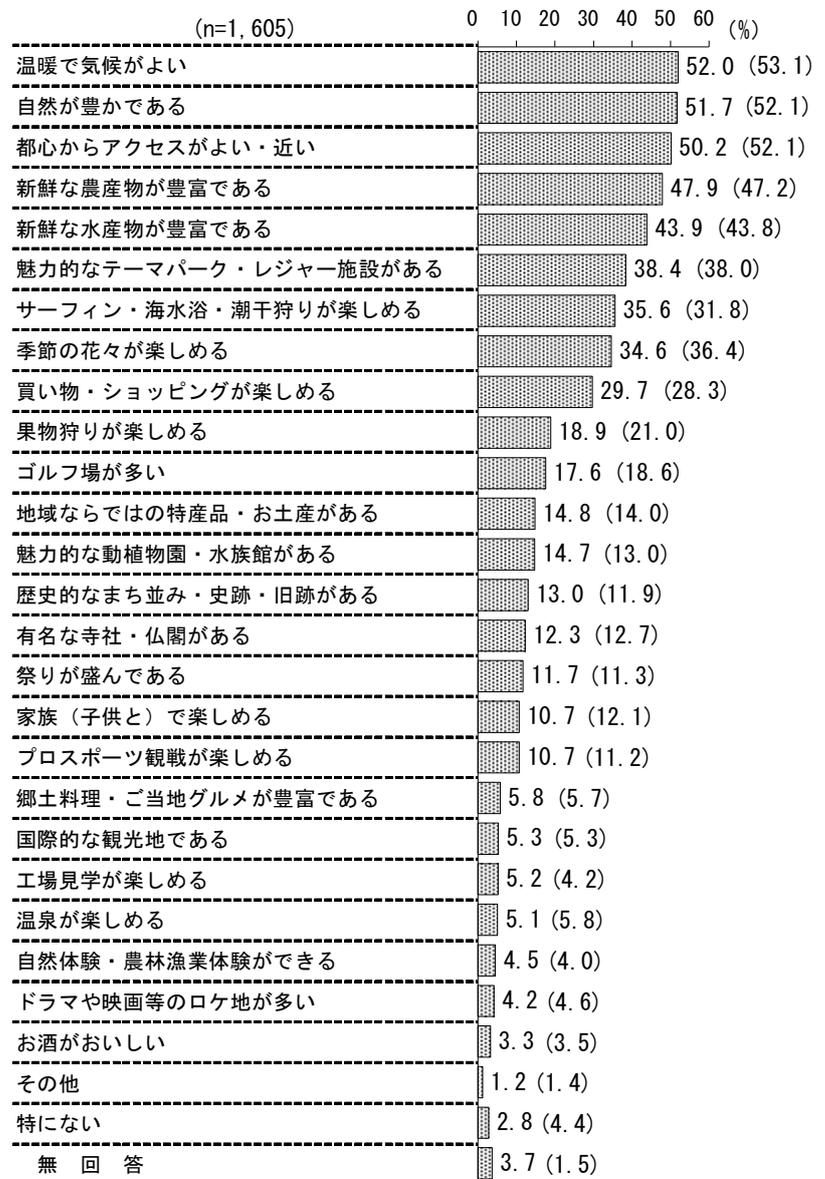


5 観光について

(1) 千葉県の魅力

(複数回答：いくつでも)

千葉県の魅力は何だと思うか聞いたところ、「温暖で気候がよい」(52.0%)が5割を超えて最も高くなっている。以下、「自然が豊かである」(51.7%)、「都心からアクセスがよい・近い」(50.2%)、「新鮮な農産物が豊富である」(47.9%)、「新鮮な水産物が豊富である」(43.9%)が続く。

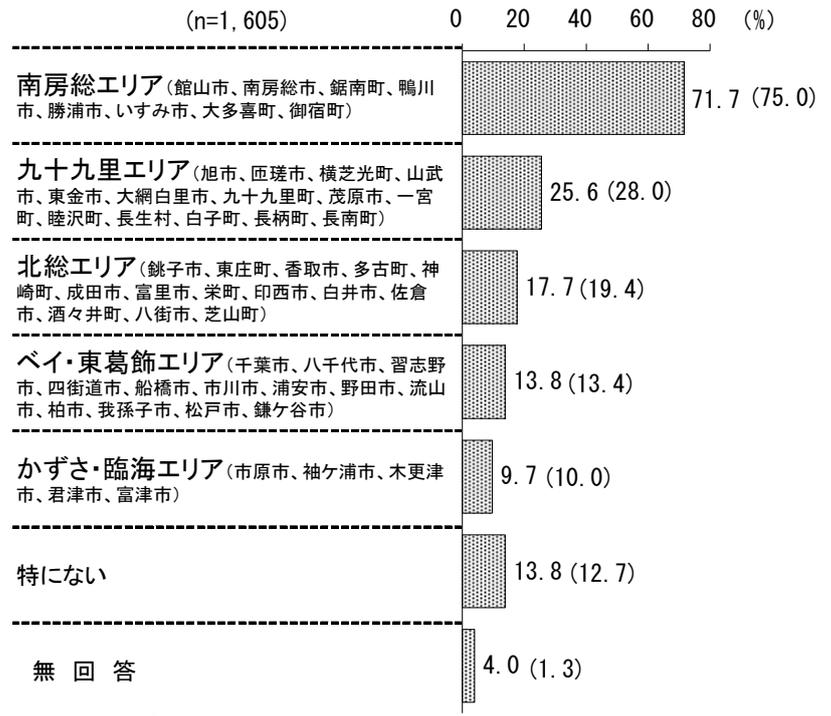


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(2) 県内で旅行に行きたいエリア

(複数回答：いくつでも)

県内で旅行に行きたいエリアはどこか聞いたところ、「南房総エリア」(71.7%)が7割を超えて最も高くなっている。以下、「九十九里エリア」(25.6%)、「北総エリア」(17.7%)、「ベイ・東葛飾エリア」(13.8%)、「かずさ・臨海エリア」(9.7%)が続く。

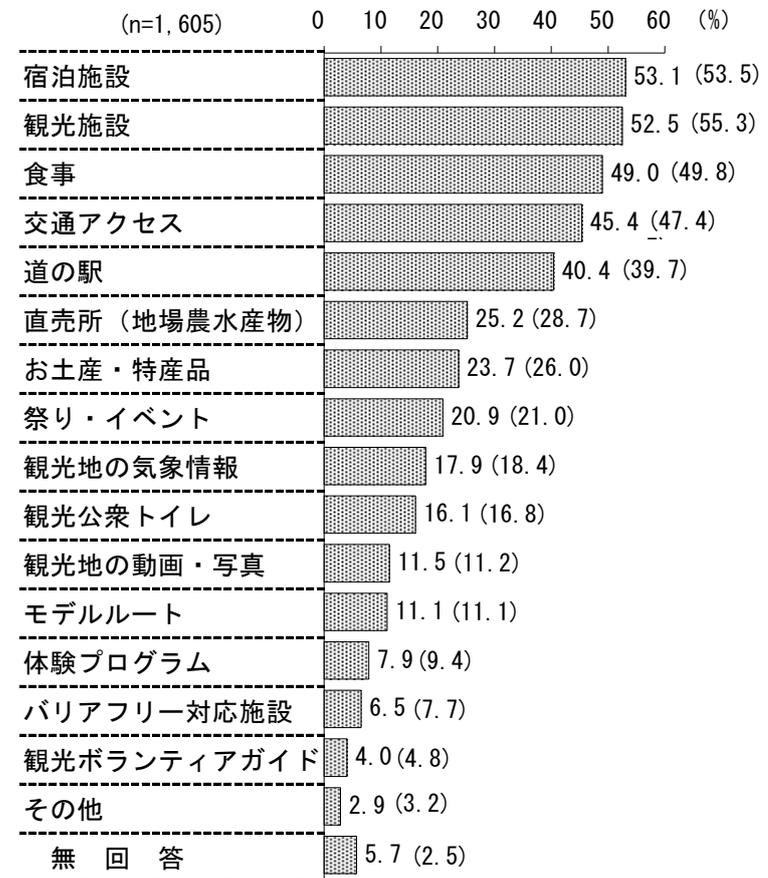


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(3) 県内を観光する際に事前に知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

県内を観光する際に事前に知りたい情報は何か聞いたところ、「宿泊施設」(53.1%)が5割台半ばで最も高くなっている。以下、「観光施設」(52.5%)、「食事」(49.0%)、「交通アクセス」(45.4%)、「道の駅」(40.4%)が続く。

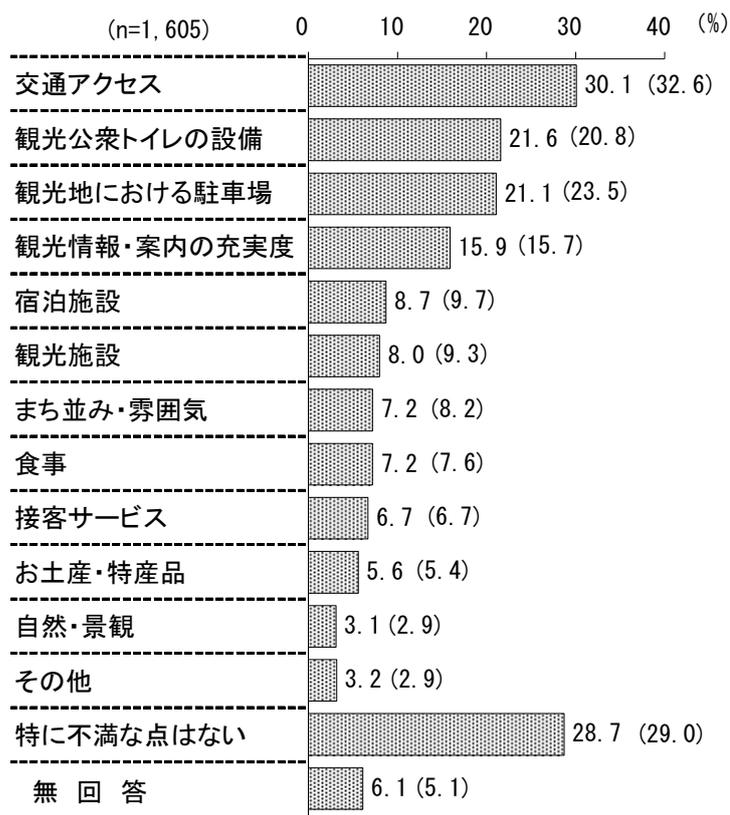


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(4) 県内を観光するときの不満

(複数回答：いくつでも)

県内を観光する際に不満に感じることを聞いたところ、「交通アクセス」(30.1%)が3割で最も高くなっている。以下、「観光公衆トイレの設備」(21.6%)、「観光地における駐車場」(21.1%)、「観光情報・案内の充実度」(15.9%)が続く。

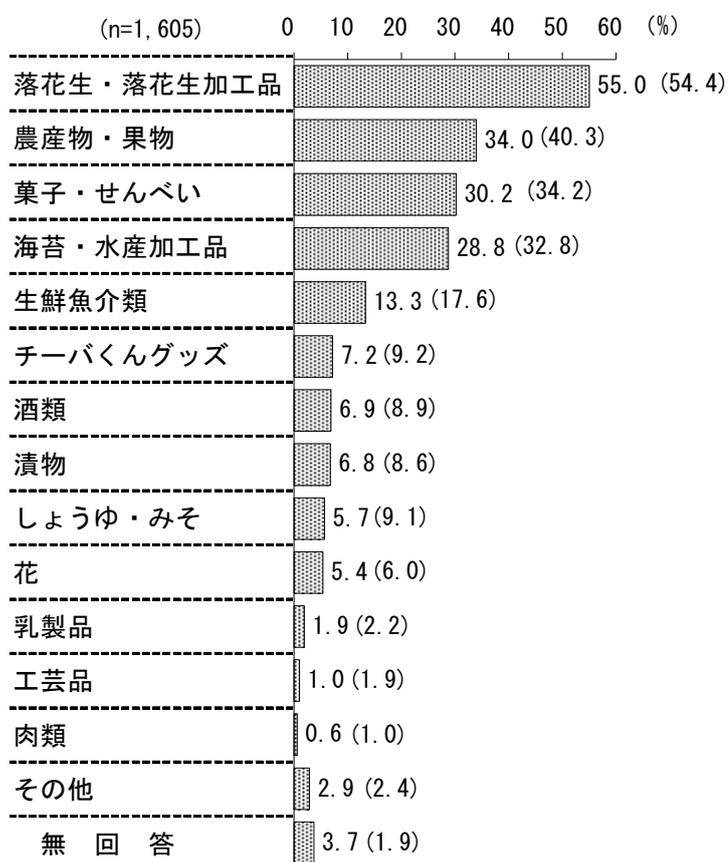


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(5) 県産品をお土産や贈答品として使う場合、贈るもの

(複数回答：3つまで)

県産品をお土産や贈答品として使うものを3つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」(55.0%)が5割台半ばと最も高く、以下、「農産物・果物」(34.0%)、「菓子・せんべい」(30.2%)、「海苔・水産加工品」(28.8%)が続く。

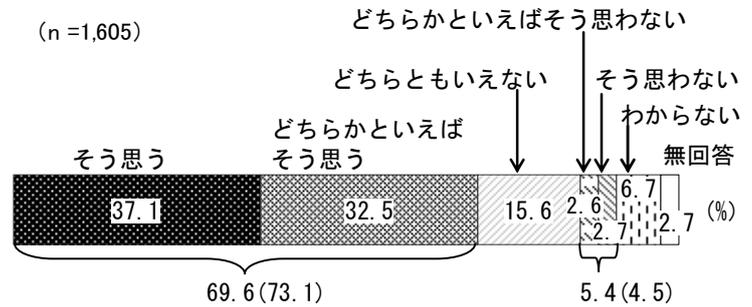


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

6 千葉県産農林水産物について

(1) 千葉県産農林水産物の購入意向

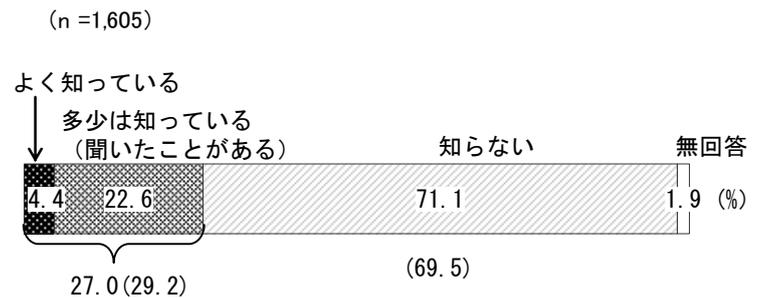
千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(37.1%)が約4割で最も高く、「どちらかといえばそう思う」(32.5%)は3割を超える。これらを合わせた『そう思う』(69.6%)は約7割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(2.6%)と「そう思わない」(2.7%)を合わせた『そう思わない』(5.4%)は1割以下となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(2) 「ちばエコ農産物」の認知度

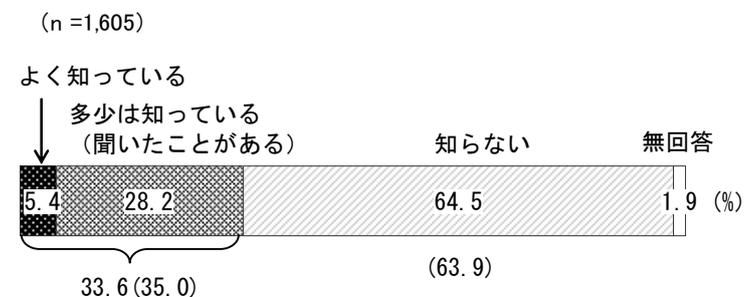
「ちばエコ農産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(4.4%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(22.6%)を合わせた『知っている』(27.0%)は約3割となっている。一方、「知らない」(71.1%)は7割を超える。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(5.4%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(28.2%)を合わせた『知っている』(33.6%)は3割台半ばとなっている。一方、「知らない」(64.5%)は6割台半ばとなっている。

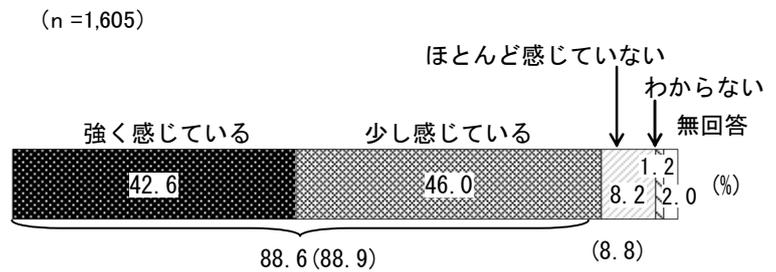


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

7 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

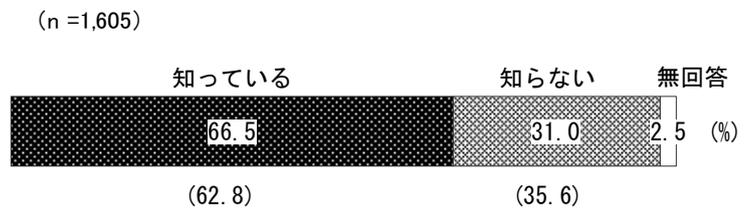
大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(42.6%)と「少し感じている」(46.0%)を合わせた『感じている』(88.6%)は約9割となっている。一方、「ほとんど感じていない」(8.2%)は約1割である。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

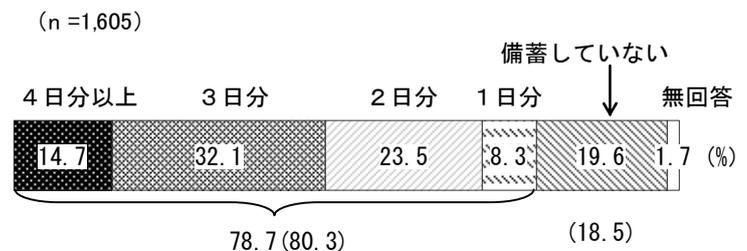
「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」(66.5%)が6割台半ばとなっている。一方、「知らない」(31.0%)は3割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(3) 飲料水や食料の備蓄状況

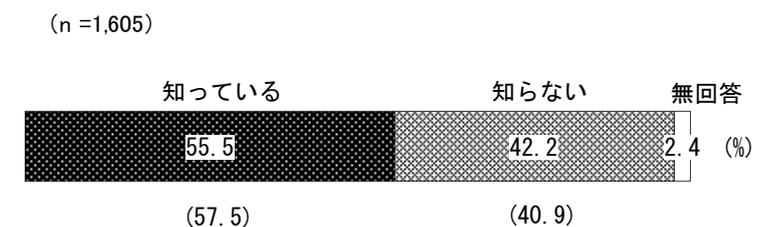
飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(32.1%)が3割を超え、「2日分」(23.5%)は2割台半ば、「4日分以上」(14.7%)は1割台半ば、「1日分」(8.3%)は約1割となっており、この4つを合わせた『備蓄している』(78.7%)は約8割となっている。「備蓄していない」(19.6%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度を聞いたところ、「知っている」(55.5%)は5割台半ばとなっている。一方、「知らない」(42.2%)は4割を超えている。

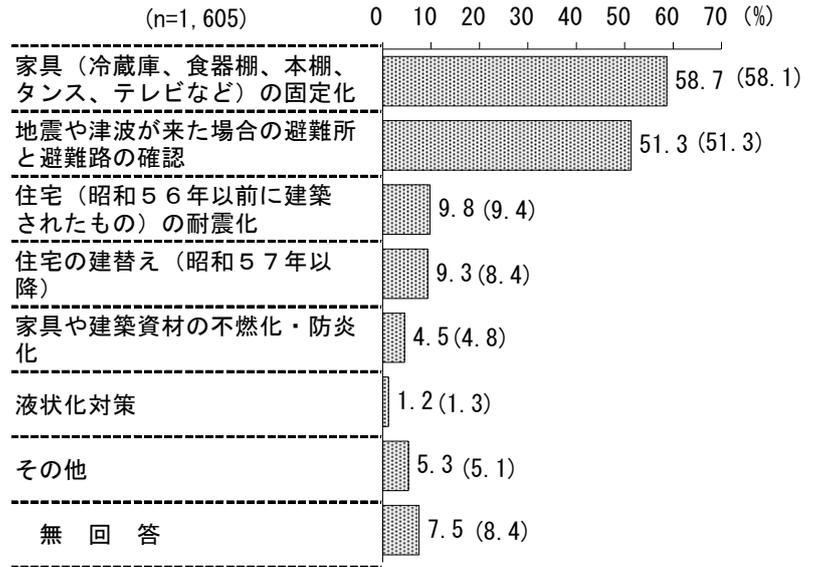


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(5) 地震の被害を防ぐための対策

(複数回答：いくつでも)

地震の被害を防ぐための対策を聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（58.7%）が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」（51.3%）が5割を超え、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（9.8%）と「住宅の建替え（昭和57年以降）」（9.3%）が約1割と続いている。

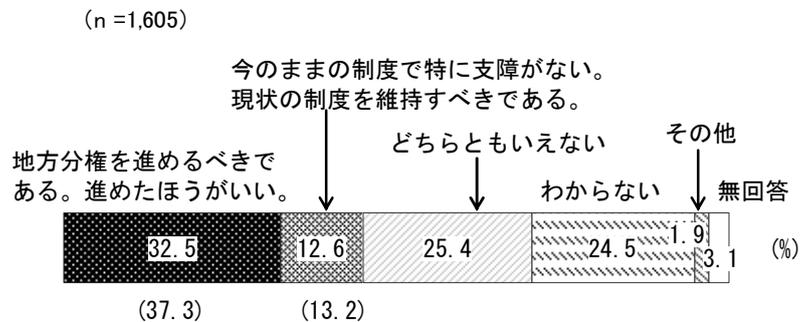


注) () 書きは、平成25年度の調査結果を示している。

8 地方分権について

(1) 地方分権を今後さらに進めていくべきか否か

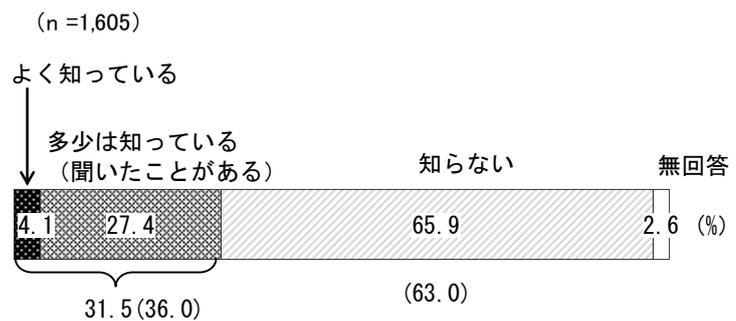
地方分権を今後さらに進めていくべきかどうかを聞いたところ、「地方分権を進めるべきである、進めたほうがいい」（32.5%）は3割を超え、「今のままの制度で支障がない。現状の制度を維持すべきである」（12.6%）は1割を超えている。「どちらともいえない」（25.4%）、「わからない」（24.5%）は2割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成25年度の調査結果を示している。

(2) 「地方分権」による基準変更の認知度

国が定めていた保育所や老人ホームの施設の基準などを都道府県の条例で定められるようになったことを知ってるかを聞いたところ、「よく知っている」（4.1%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（27.4%）を合わせた『知っている』（31.5%）は3割を超える。一方、「知らない」（65.9%）は6割台半ばとなっている。

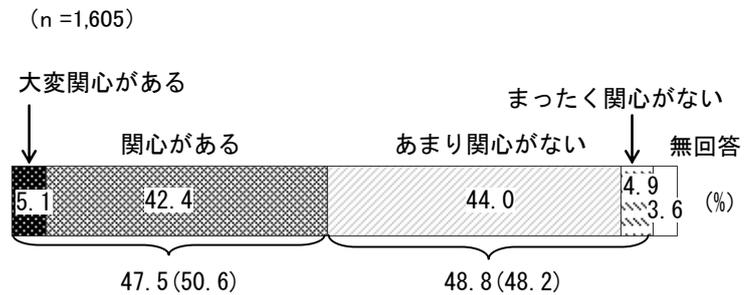


注) 下段の () 書きは、平成25年度の調査結果を示している。

10 広報・広聴活動について

(1) 県の施策や政策などについての関心度

県の施策や政策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(5.1%)と「関心がある」(42.4%)を合わせた『関心がある』(47.5%)は約5割となっている。一方、「あまり関心がない」(44.0%)と「まったく関心がない」(4.9%)を合わせた『関心がない』(48.8%)も約5割となっている。

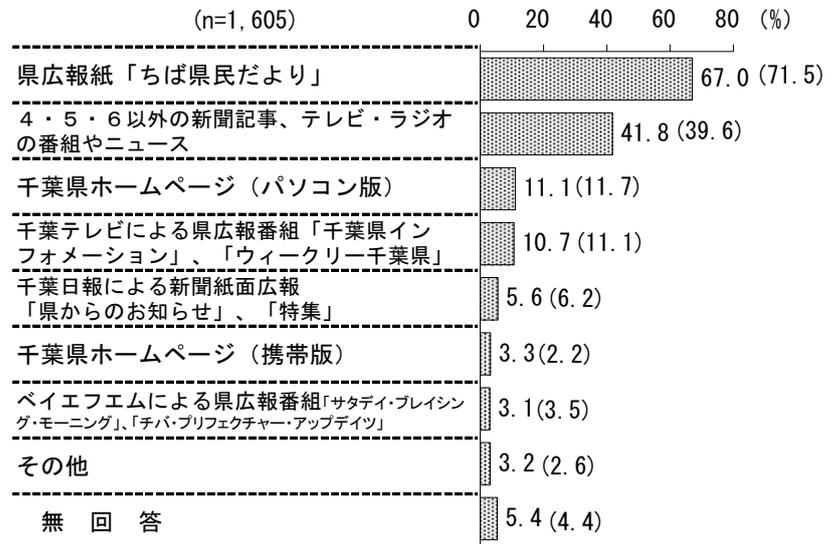


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(67.0%)が約7割で最も高く、以下、「4・5・6以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(41.8%)、「千葉県ホームページ(パソコン版)」(11.1%)、「千葉県ホームページ(携帯版)」(10.7%)と続いている。

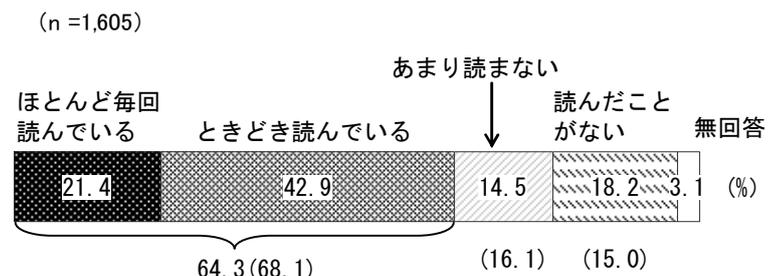


(※)「4・5・6以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、4・5・6とは、『千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、「特集」』、『千葉テレビによる県広報番組「千葉県インフォメーション」、「ウィークリー千葉県」』、『ベイエフエムによる県広報番組「サタデー・プレイング・モーニング」、「チバ・プリフェクチャー・アップデート」』を指す。

注) () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

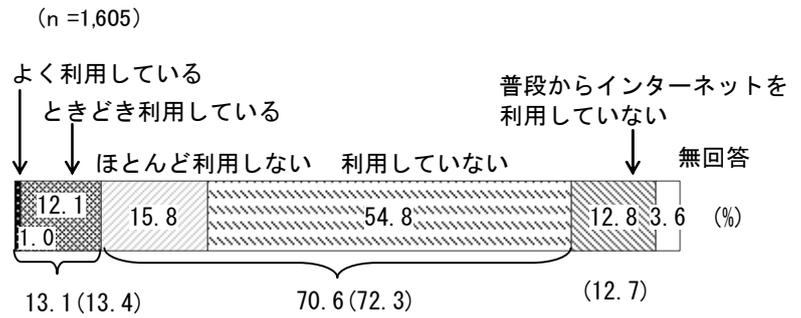
県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(21.4%)は2割を超え、「ときどき読んでいる」(42.9%)は4割を超えている。これらを合わせた『読んでいる』(64.3%)は6割台半ばとなっており、一方、「あまり読まない」(14.5%)は1割台半ば、「読んだことがない」(18.2%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(4) 千葉県ホームページの利用頻度

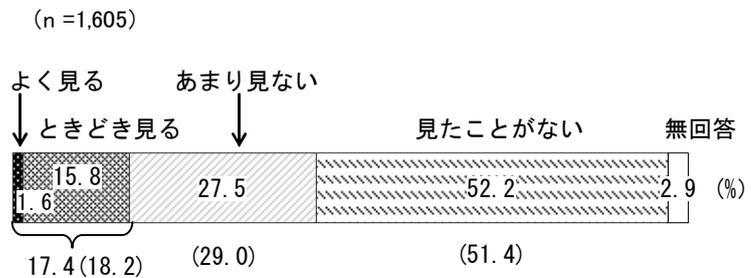
千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(1.0%)と「ときどき利用している」(12.1%)を合わせた『利用している』(13.1%)は1割台半ばとなっている。一方、「ほとんど利用しない」(15.8%)と「利用していない」(54.8%)を合わせた『利用していない』(70.6%)は7割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(5) 県の広報番組の視聴状況

県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(1.6%)と「ときどき見る」(15.8%)を合わせた『見る』(17.4%)は約2割となっている。一方、「あまり見ない」(27.5%)は約3割で、「見たことがない」(52.2%)は5割を超えている。

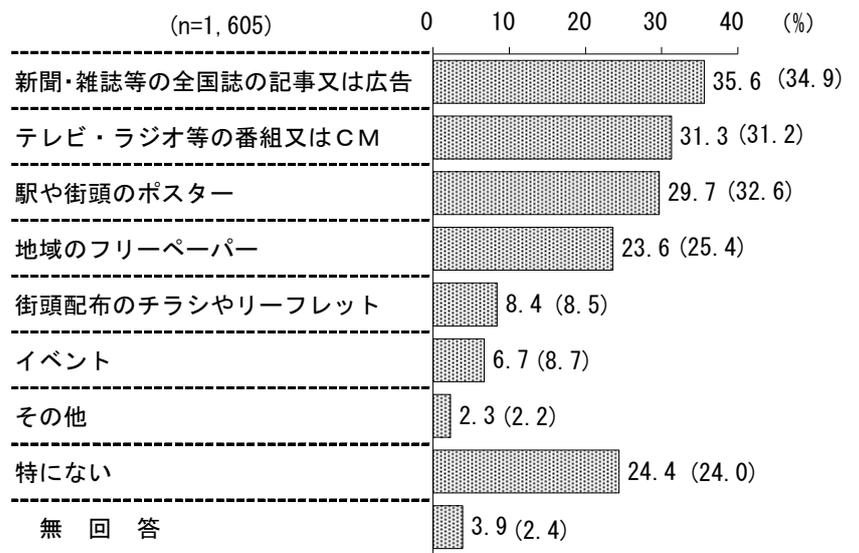


注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(6) 県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況

(複数回答：いくつでも)

県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況を聞いたところ、「新聞・雑誌等の全国誌の記事又は広告」(35.6%)が3割台半ばで最も高くなっている。以下、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(31.3%)、「駅や街頭のポスター」(29.7%)、「地域のフリーペーパー」(23.6%)、「街頭配布のチラシやリーフレット」(8.4%)、「イベント」(6.7%)、「その他」(2.3%)が続いている。

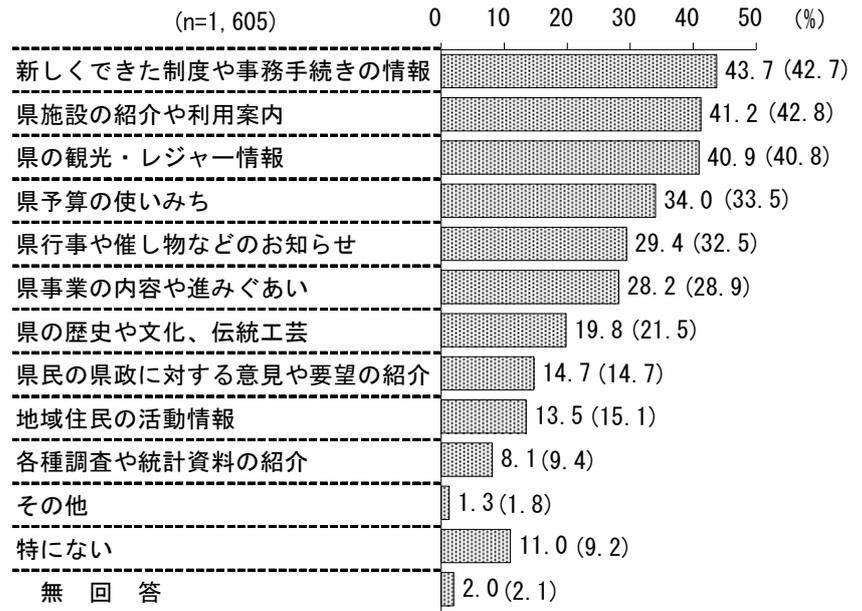


注) () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(7) 県の知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

県の知りたい情報を聞いたところ、「新しくできた制度や事務手続きの情報」(43.7%)、「県施設の紹介や利用案内」(41.2%)、「県の観光・レジャー情報」(40.9%)が4割以上となっている。

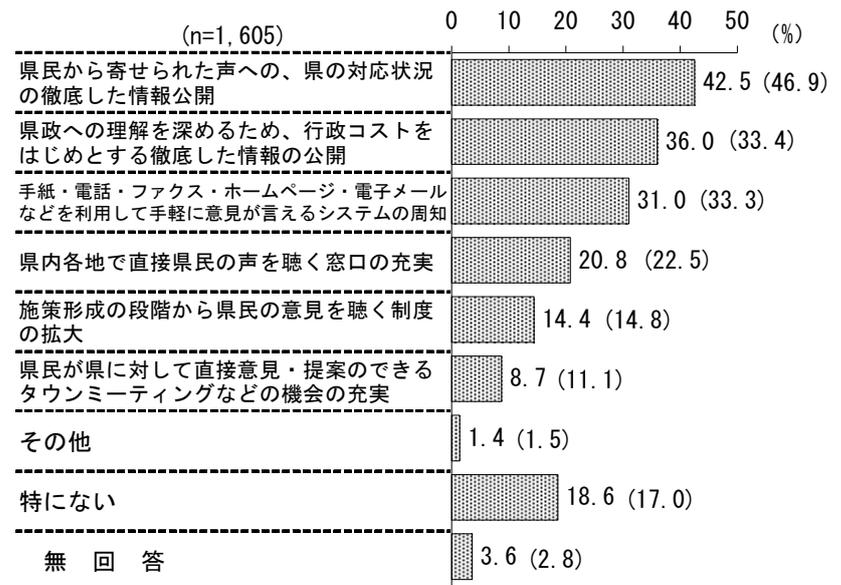


注) () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(8) 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと

(複数回答：3つまで)

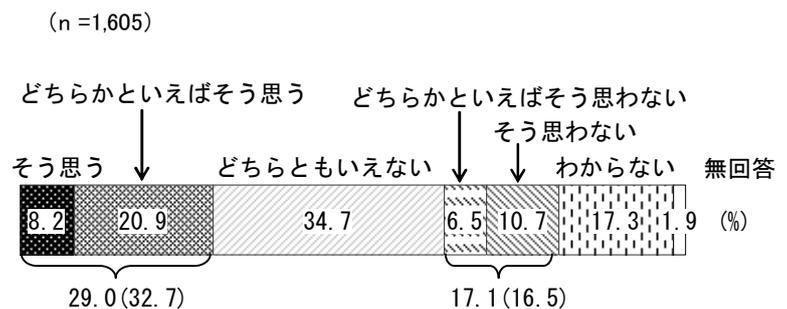
県政に対する意見を述べやすくするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」(42.5%)が4割を超えて最も高くなっている。以下、「県政への理解を深めるため、行政コストをはじめとする徹底した情報の公開」(36.0%)、「手紙・電話・ファクス・ホームページ・電子メールなどを利用して手軽に意見が言えるシステムの周知」(31.0%)などが続いている。



注) () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

(9) 県政への意見の反映

自分の意見を県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(8.2%)と「どちらかといえばそう思う」(20.9%)を合わせた『そう思う』(29.0%)は約3割となっている。一方、「そう思わない」(10.7%)と「どちらかといえばそう思わない」(6.5%)を合わせた『そう思わない』(17.1%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 25 年度の調査結果を示している。

【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、330人から延べ394件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形（合計37項目）で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に関する要望

○日本の中でも千葉県は自然災害も少なく、緑が豊富で、観光面をみても秀逸であり、とても住みやすいと思います。私は県民ひとりひとりに目がいき届くような、人間（子供、若人、老人等）にやさしい施策を考えて、県政を運営して頂けるように望みたいと思います。（男性、65歳以上、東葛飾地域）

■便利な交通網を整備する

○近隣の都や県と比較し、インフラの整備に不満があります。どこへ行くにも慢性的な渋滞は、特に深刻だと思います。人や物の流れがスムーズになれば、結果として県自体に良い流れがくると思います。宜しくお願い致します。（男性、30代、東葛飾地域）

■道路を整備する

○道路、街路工事の事業着手から、工事完成までの期間が長すぎる。また幹線道路は少なくとも片側2車線以上とし、走行しやすい整備が必要と思われる（周辺都県と比べて、道路整備が遅れているように思われる）。（男性、65歳以上、千葉地域）

■高齢者福祉を充実する

○年金生活で、老後が豊かに過ごせる様に願っています（心身、物質ともに…）。（男性、60代、夷隅地域）

■犯罪防止対策をすすめる

○海沿いに住んでいますが、夏しか住みに来ない家がたくさんあって、冬は空き家状態の家で、冬はよく空き巣の被害がすごくあって、近場に交番とかあればと思っています。あと夜になると真っ暗になってしまうので、もう少し街灯とかコンビニとかあるといいなあと思います。（女性、30代、山武地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○子供は宝。生んで良かったと思える支援制度の充実が県の人口を増やし、県の発展のキーになると思っています。他の都道府県に先がけて施策を多く行って欲しい。（男性、50代、千葉地域）

■観光を振興する

○私はこの4月から京都より千葉へと移ってきた者ですが、地方、特に西日本での千葉の知名度が低いように感じる。都心からの近さ、成田空港という利点を大いに活かし、国内外から多くの観光客を集客するための活動をしていただきたい。このことが、地域活性、雇用の拡大にもつながると考えられると思う。（男性、20代、葛南地域）

■県政情報の発信や活動のPRについて

○千葉テレビやベイエフエムの他に各市町村に千葉の情報などをもっと伝える為にケーブルテレビやコミュニティFMラジオ局などの整備を進めて欲しいです。（男性、30代、長生地域）

■医療サービス体制を整備する

○市民病院のあり方について。現在、各市での運営によって成り立っている様ですが、千葉県がもう少し実情を知って、見直しや地域患者が病院にかかり、安い様にしてもらいたい。（性別・年齢無回答、海匝地域）

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、137人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

- 世論調査をして、その後も教えて下さい。調査されて意見をのべても、何も反映されなければ意味がないと思う。意味がある、わかる世論調査にしてください。（女性、30代、葛南地域）
- 県民の意識を汲み取ろうと云う大変良い調査だと思います。以上。（男性、65歳以上、東葛飾地域）
- 質問の内容が偏っている。都市部の意見が少ない。観光への意見は東京都、神奈川県等で行うものである。県民に必要なし。（男性、65歳以上、印旛地域）
- ただ形だけで終わらせるのではなく、世論調査をいかして県民の声をしっかりと県政にいかしてほしい。（男性、20代、夷隅地域）
- 千葉県が少しでも前進して行けるようにと思います。千葉県に生まれ育ち、61年が過ぎました。千葉は住みやすく食べ物もおいしいです。旭市でも外来動物（ハクビシン）が増えてきているという話を聞きます。作物を食べてしまうという事ですので、なんとかならないものかと思います。（女性、60～64歳、海匝地域）
- ネットによる調査を検討して欲しい。紙削減にもなる。（女性、50代、東葛飾地域）
- 千葉県は広すぎるので、各地区にわけての質問があると、答えやすかった。（女性、40代、長生地域）
- 日頃、県政について考える事無く、ぼんやりと過ごしていた事を恥ずかしく思います。アンケートに答える機会を与えていただき、ありがとうございました。森田知事がテレビ番組に出演されると嬉しく、県民として応援しています。知事の知名度を生かしてどんどんテレビに出演し、千葉県をアピールして観光・物産を盛り上げていただきたく思います。（女性、40代、葛南地域）